様式B-1

リーディングDXスクール事業　【実践事例】

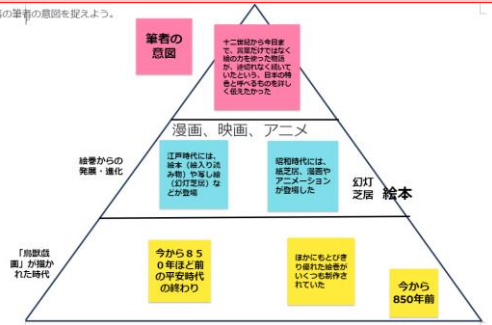
久喜市立小林小学校（埼玉県）

【取組内容①】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

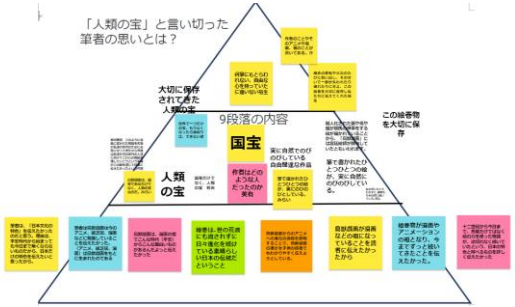
６年【国語】「鳥獣戯画」を読む／日本文化を発信しよう の実践

◎各段落の要旨や筆者の書き方の工夫をジャムボードを活用して話合った。ペアや全体での話合いに活用することで、協働的な学びを目指した。

◎日本文化（日本画）の良さを伝えるため、筆者の見方・伝え方を参考にジャムボードを使って自分の見方をはっきりさせた。メモを元にドキュメントで紹介文を作成。紹介文のレイアウトや文字の大きさ、写真の配置など、目的に合わせて個々に考えて作成させた。



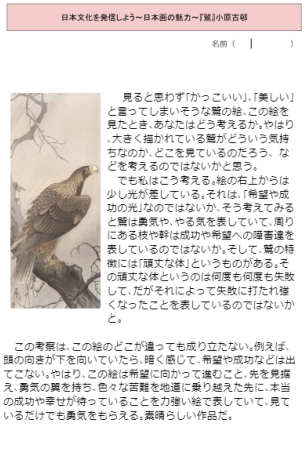
＊ピラミッドチャートを使って焦点化



日本文化の一つ「日本画」を発信しよう！　　名前（　　）

全体を見て感じること	作者の情報	細かい部分を見て感じたこと
鷲が木にとまり、今にも飛びそうな体勢で上を見ている。 鷲の見ている方向からは、光が溢れ出ている。	小原 古邨は、明治時代から昭和時代にかけての日本画家・木版画の下絵師。 （出典：・"小原古邨"-ウィキペディアフリー百科事典. https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E5%8E%9F%E5%8F%A4%E9%82%A8　）	「全体を見て詳しく感じること」と同じ視点方で考えると、鷲の周りにある枝たちは、希望や成功に向かうまでの障害なのではないか その障害にあたってもあたってもめげないものが鷲なのではないか
もう少し全体を見て詳しく感じること 光は、希望や成功のことで、鷲を勇気と捉えると、勇気の翼で羽ばたき進むことでその先には成功が有るということを表しているのではないか。	選んだ絵を「コピー」→「トリミング」してはりましょう	もう少し細かい部分を見て詳しく感じたこと 落ち着いていて、どこかどっしりと、力強さを感じさせる描き方がされていて、実に素晴らしい。 鷲の特徴には「頑丈な体」というものがあるその頑丈な体というのは何度も何度も失敗して、だがそれによって失敗に打たれ強くなったことを表しているのではないか。
（この絵のどの部分に一番作者の思いが乗っていると思うか、その理由） 思いが乗っているのは、やはり頭の部分だと思う。なぜかというと、頭の向いている方向が違うだけで、「前向き」、「希望に向かっている」という考えが、すべてちがってしまうから。	独に優れていると感じるところ 羽一枚一枚までこだわっていて、鷲に、絵として違和感を少しも感じないところ。 鷲以外をあまり目立たせないように、木などは必要最低限の描き込みだけしていて、「鷲」が主役ということが一目でわかるようになっているところ。	この作品の自分なりの評価 先を見据え、勇気の翼を持ち、色々な苦難を地道に乗り越えた先に、本当の成功や幸せが待っていることを力強い絵で表していて、とても勇気をもらえる作品。

＊マンダラチャート使って自分の見方を明確にしていく。



◆個々の作業中でも、作成の途中経過をチャットを活用して伝え合うことで**他者参照する機会を設けた。**子どもたちが自分の考えの良さに気づいたり、友だちの良さを知り、自分の文章に取り入れたりすることができ、結果として**全体的な表現力の向上につながった。**